

現代社会学科

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

現代社会学科は、社会学、経済学、文化人類学、歴史学などの社会諸科学の理論と方法を学修することを通して、現代社会を多角的に見つめ考える学科である。広い領域に至る社会問題や社会現象を総合的な視点から捉え、的確なデータに基づいて考察できる人間の育成を目的としている。

本学科が求める学生像は、以下のとおりである。

【求める学生像】

- ・現代社会における諸問題に関心を持ち、その解決に向けて多角的に考えている人
- ・身近な出来事と社会全体の動向との関わりの探究に意欲を持っている人
- ・日本および世界の社会や歴史に関心をもち、それを多角的、総合的に理解・把握したいと考えている人

【高等学校段階までに修得すべき学力】

- ・国語、地理歴史、公民に関する一定の知識と理解力
- ・論理的に物事を考える基礎的な思考力と、自分の考えをまとめ他者に正しく伝える基礎的な表現力
- ・日本文と外国語を読み取り、その内容を理解し表現する力。
- ・他者とコミュニケーションを取り、協働して物事に取り組む力

上記の学力を身につけているかを判定する入学者選抜試験を以下の基本方針で行う。

(1) 一般選抜

一般選抜では、各入試区分で課している科目における基礎的な知識を身につけているかを、思考力および表現力も加味しながら判定する。

・一般選抜（個別選抜型）

筆記試験により、国語、外国語（英語）、地理歴史または数学における知識を身につけているかを、思考力および表現力を加味しながら判定する。

・一般選抜（英語外部試験利用型）

英語外部試験を利用して英語の4技能をバランスよく十分に修得しているかを判定する。

さらに、筆記試験により、国語、地理歴史または数学の知識を身につけているかを、思考力および表現力を加味しながら判定する。

- ・一般選抜（大学入学共通テスト利用型前期）

大学入学共通テストの国語、外国語、および地理歴史・公民・数学・理科のうち1教科の計3教科の試験によって、それぞれの科目における基礎的な知識、思考力および表現力を身につけているかを判定する。

- ・一般選抜（大学入学共通テスト利用型後期）

大学入学共通テスト利用型前期と同じ方針で判定する。

(2) 総合型選抜

総合型選抜の第一次選考では、調査書を用いて高等学校等における取り組み状況を調査し、高校までに身につけるべき基礎的な知識と技能、主体性および協働性を総合的に判定する。また、全学科共通課題を通して主体性、論理的思考力および表現力を判定する。第二次選考では、小論文試験および口述試験にて現代社会における諸問題に関心を持ち、その解決に向けて多角的に考えているか、身近な出来事と社会全体の動向との関わりへの探究に意欲を持っているかを審査し、またコミュニケーション力や他者と議論する力なども審査する。以上の調査と試験を通して総合的に判定する。

(3) 学校推薦型選抜

高等学校等学校長によって推薦された人は、高校までに身につけるべき基礎的な学力を有していると判断する。さらに、出願書類と面接試験（口述試験）によって、学修や研究への意欲、自分の考えを表現する力、コミュニケーション力および協働性を総合的に判定する。

- ・学校推薦型選抜（附属高等学校推薦）

日本女子大学附属高等学校長が推薦する人を対象に、出願書類と面接試験によって総合的に判定する。

- ・学校推薦型選抜（指定校制）

本学科が指定する高等学校（指定校）の学校長が推薦する人を対象に、出願書類と口述試験によって総合的に判定する。

(4) 外国人留学生

日本留学試験の日本語、総合科目の試験によって、十分な基礎学力を有しているかを判定する。出願書類および口述試験によって、学修意欲、主体性、日本語能力、コミュニケーション

ョン能力、他者と議論する力、現代社会に関する基礎的な知識を有しているかを審査し総合的に判定する。

(5) 編入学・学士入学

大学・短期大学・高等専門学校を卒業した人（見込みを含む）や他大学在学中の人を対象に、小論文試験を行い、大学2年次もしくは3年次に相当する専門的な知識を有しているかを審査する。出願書類、小論文および口述試験によって、学修意欲、主体性、コミュニケーション能力、他者と議論する力、現代社会に関する十分な知識を有しているかを審査し総合的に判定する。

(6) 社会人

大学・短期大学・高等専門学校を卒業した人を対象に、小論文および口述試験によって、大学2年次もしくは3年次に相当する専門的な知識を有しているかを審査する。出願書類および口述試験によって、学修意欲、主体性、コミュニケーション能力、他者と議論する力、現代社会に関する十分な知識を有しているかを審査し総合的に判定する。